

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	交流・環境	29年度事業・施策評価結果			責任者	企画調整室 海域企画担当課長
施策名	良好な港湾環境の形成	成果	コスト			
事務事業名	しゅんせつ土砂処分場の確保	継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7969
目的	対象(誰・何を)	名古屋港で発生するしゅんせつ土砂			事業期間	平成18年度～継続
	意図(どういう状態にしたいか)	国土交通省中部地方整備局が行うしゅんせつ土砂処分場の確保に向けた調査や手続きに協力し、長期かつ安定的な処分場の確保を図ります。				
概要	名古屋港で継続的に発生するしゅんせつ土砂について、国土交通省中部地方整備局が行うしゅんせつ土砂処分場の確保に向けた調査やしゅんせつ土砂処分場計画の策定に取り組んでいきます。				根拠法令等	
30年度の実施予定	しゅんせつ土砂処分場の確保に向け、平成30年度中に環境影響評価法に基づく準備書の手続きを進めていきます。土砂処分場の確保が早期に行われるよう、引き続き国等と連携し関係者調整を行っていき、しゅんせつ土砂処分場計画の策定に取り組んでいきます。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連シート	

2 DO(実施)

30年度に実施した内容・結果	引き続き、環境影響評価準備書の手続き開始に向け関係機関と協力して調整を行い、手続きを令和元年3月に開始しました。					
コスト		28年度	29年度	30年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	3,136	3,217	3,227	3,193	
合計	千円	3,136	3,217	3,227	3,193	

3 CHECK(検証)

指標名	28年度	29年度	30年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
しゅんせつ土砂処分場計画の策定までの状況(全4工程) (進行管理型)	目標	2	3	4	4(累計)	しゅんせつ土砂処分場計画策定までの完了した工程数 ①事前準備 ②漁業影響調査 ③環境影響評価準備書手続きの開始 ④港湾計画への位置付け 環境影響評価準備書において、土砂処分場の地形が示されたことから、工程を見直しました。	
	実績	1	2	3			
	事業進捗状況(30年度)		順調		やや遅れ		遅れ
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	目標					令和元年3月に、環境影響評価法に基づく準備書の手続きが開始しました。令和元年度中の環境影響評価法に基づく手続き完了に向け、引き続き関係機関と協力し調整を進めていくと共に、しゅんせつ土砂処分場計画の策定に取り組んでいきます。	
	実績						
	事業進捗状況(30年度)						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ しゅんせつ土砂処分場確保については、安全かつ効率的な名古屋港の開発整備の観点から、本組合が積極的に関与すべき重要な事務事業です。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 現処分場の処理能力を考慮すると、早期に処分場を確保する必要があります。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△ 国は漁業影響調査を取りまとめ、処分場確保に向けて関係者調整を進めています。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 処分場確保には様々な調整が必要なため、今後も本組合をはじめとする関係者が協力して取り組んでいきます。					

4 ACTION(取組)

5年間の状況	課題	令和元年度以降の取組	重点施策として位置付け継続
やや遅れ	しゅんせつ土砂処分場確保するためには、関係者とのさまざまな調整が必要です。	国等の関係機関と連携し関係者の理解を得ながら、しゅんせつ土砂処分場の確保に向け重点的に取り組んでいきます。	